

巻 頭 言



相模原市長 加山 俊夫

世界とつながる交流拠点・相模原

相模原市は、東京都心から約 30～60km 圏内に位置し、多様な都市機能を有する市街地と、5つの湖など豊かな自然が共存する都市です。また、小惑星探査機「はやぶさ2」などを開発した宇宙航空研究開発機構（JAXA）の相模原キャンパスがあることから、宇宙をキーワードとしたシティセールスにも取り組んでおります。

国際化の推進にあたっては、本市の外国人住民が1万3千人を超え、定住化も進み、今後も増加傾向にあることから、「世界に開かれた地域社会」の実現に向け、各種施策を展開しているところです。

昨年8月には、JAXAの研究施設に縁のある国内7市町（銀河連邦各共和国）と海外4カ国の子ども達、そして、宇宙飛行士の山崎直子氏を迎え、「こどもワールドサミット～宇宙・夢・わたしたちの未来～」を開催しました。このサミットでは、総勢55名の子ども達が、宇宙や地球の未来をテーマに話し合い、夢と希望に満ちたメッセージを発表してくれました。参加した子ども達にとって、皆で寝食を共にした3日間は、グローバルな視点を養うとともに、言語や文化の違いを越えて、友情を築く貴重な機会になったと思います。

また、東京2020オリンピック競技大会において、ブラジル及びカナダの選手団が本市で事前キャンプを行うことが決定いたしました。身近な場所で世界水準のスポーツに接するチャンスがあることは、子ども達をはじめ、多くの市民にとって何ものにもかえがたい体験になるものと大いに期待しております。イベントや、アスリートと市民との交流などにより、2020年以降のレガシーにつながるよう、市を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。

現在、本市では、首都圏南西部の「広域交流拠点都市」として、首都圏から延びる主要な高速道路をつなぐ圏央道のインターチェンジ周辺での産業拠点づくりや、21世紀の交通大動脈として期待されるリニア中央新幹線の駅設置、米軍基地・相模総合補給廠の一部返還地を利用したコンベンション機能を含む新たなまちづくりなど、大規模なプロジェクトが進行中です。スーパー・メガリージョンの一翼を担う都市としてふさわしいまちづくりを着実に推進することによりまして、首都圏南西部全体の成長の源泉となる「未来を拓く さがみはら新都心」の形成を図ってまいります。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、わが国に対する世界各国からの注目が高まる中、本市が備える都市としての魅力を生かし、「相模原」を世界に発信してまいります。